

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 30 年 6 月 19 日現在

機関番号：27101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26330403

研究課題名(和文) 福祉専門教育における情報技術を活用した教育プログラムの開発とその効果

研究課題名(英文) Development and effect of educational program utilizing information technology in welfare special education

研究代表者

坂本 毅啓 (SAKAMOTO, TAKEHARU)

北九州市立大学・基盤教育センター・准教授

研究者番号：30353048

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、社会福祉士及び保育者の養成教育に焦点化し、情報技術を活用した教育プログラムを開発し、その効果について分析を行った。研究の流れとしては、ソフトウェアを開発し、社会福祉士養成教育では模擬面接、保育者養成教育では模擬保育の動画をそれぞれ撮影した。その動画をパソコンや携帯端末を学習者間で評価を行い、必要とされる専門的スキルの獲得に、従来の紙による学習よりも効果があることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：In this research, focusing on education for social worker and child care teacher, we developed an educational program utilizing information technology and analyzed its effect. As a flow of research, we developed software, photographed a simulated interview for social worker training, and simulated childcare video in childcare education. We evaluated the movie on personal computers and mobile terminals among learners and clarified that it is more effective than conventional paper learning methods to acquire the necessary special skills.

研究分野：情報学

キーワード：福祉専門教育 情報技術 教育プログラム 社会福祉士 保育士 模擬演習

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年の少子高齢化、介護ニーズの多様化・高度化といった社会背景を踏まえ、福祉政策としてもどのような福祉人材を、どのようにして確保するのかというのは喫緊の課題である。厚生労働省はインターネットやテレビ放送を活用した通信教育の積極的活用を挙げ、介護の実務経験者が働きながら受講しやすい環境整備の重要性を指摘している。

(2) このような社会背景と福祉政策の方向性があるにも関わらず、研究開始以前の時点では、福祉専門教育の領域において情報技術（ICT）を活用した教材の開発が、これまで行われていなかった。

(3) これらを踏まえて、申請者らはまず、介護職員実務者研修に着目してICTの活用について検討を行った。その次に、福祉職（介護職を含む）の実務者に対してアンケートを実施し、どのようなアプローチで福祉専門教育に情報技術を効果的に取り組んでいけば良いかを検討した。この経緯を踏まえ、次の研究目的を掲げるに至った。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、福祉専門教育におけるICTを活用した研究は、これまでに行われておらず、新規の領域を開拓し、より質の高い福祉人材を養成する教育プログラムの開発を目的とした。

3. 研究の方法

(1) 研究方法としてはソフトウェアの研究開発、開発したソフトウェアを使って実務経験者による模擬演習の観察・評価の分析、同じくソフトウェアを使っての学生の模擬演習の自己・相互評価の分析、参加した学生に対するインタビュー調査とその分析、の4つである。

(2) 福祉専門教育の範囲としては、社会福祉士養成教育と保育者養成教育の2領域として、同じソフトウェアを活用することとした。社会福祉士養成教育では相談援助演習における模擬面接とした。保育者養成教育では教職実践演習における模擬保育とした。

4. 研究成果

(1) ソフトウェアの開発については、プラットフォームとしてはLMSのMoodleとし、オンラインで結ばれた自宅や大学におけるパソコン、及び携帯端末で利用できるソフトウェアを開発した。

(2) このソフトウェアは、模擬演習場面の動画を視聴し、学習者は設定された評価項目に基づいて獲得すべきスキルができていのかをチェックし、その感想やアドバイスなどを自由に入力することができるものであ

る。作成にあたっては山辺（2003）における評価シートを参考にした。当初は模擬面接評価指標のみで作成し、その後、模擬保育でも活用できるように汎用性を高め、評価指標を教材作成者が自由に設定できるようにバージョンアップを行った。

(3) 作成したソフトウェアで、模擬面接・模擬保育の演習場面を視聴して評価する画面については、図1、図2の通りである。学習者による評価及びコメントをまとめて閲覧する画面については、図3の通りである。

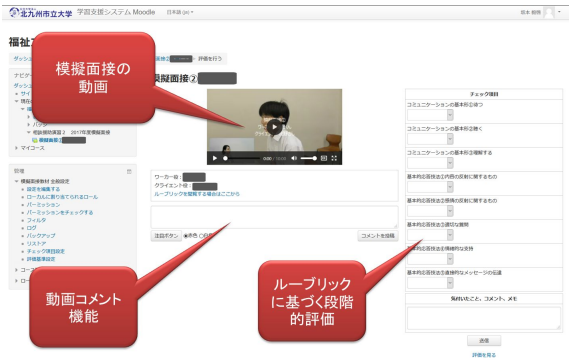


図1 パソコンの動画視聴・評価画面



図2 携帯端末の動画視聴・評価画面

評価項目	取得	目標	評価	コメント	操作
コミュニケーションの場を構築する		コミュニケーションの場を構築する			
コミュニケーションの場を構築する		コミュニケーションの場を構築する			
コミュニケーションの場を構築する		コミュニケーションの場を構築する			

図3 パソコンでの評価閲覧画面

(4) 開発した模擬面接に関するソフトウェアを活用した授業の展開については、2014年度から2017年度にかけて、社会福祉士国家試験受験資格取得を目指す相談援助演習を履修する学生に対して、行った。その教育実績としては、表1の通りである。結果については、表2のようにICTの活用は役に立つということがわかった。

	模擬面接参加者	アンケート回答者
実施年度		
2014年度	12	12
2015年度	8	7
2016年度	16	0
2017年度	8	7
合計	44	26
本論の分析対象	16	14

表1 模擬面接教材の活用実績

	度数	割合
ICTでのコメントの方が役に立った。	3	42.9%
ICTでのコメントとプリントでのコメントは、同程度役に立った。	3	42.9%
プリントでのコメントの方が役に立った。	1	14.3%
総計	7	100.0%

表2 模擬面接におけるICTとプリントの比較

(5) ICTを活用した教材の利点は、表3のように「自分を客観的に観察することができた」が最も多かった。全体的に自己評価を客観的に行える、じっくりと観察することができるという利点があることが分かった。

項目	度数	割合
・自分を客観的に観察することができた。	7	100.0%
・表情や声量、態度等、全てのふりかえりができたので、自己評価するにはとてもよかった。	6	85.7%
・クライアントの視点でワーカーの表情を観察したり、言葉を聞いたりすることができた。	6	85.7%
・ワーカーの細かな表情や仕草、クライアントに対する姿勢を、ICTを活用した方がよく観察することができた。	6	85.7%
・自分の良いところも、悪いところもわかりやすかった。	5	71.4%
・表情や雰囲気づくりに気を付けようと思っていたところが、見るだけで伝わってきた。	4	57.1%

表3 模擬面接におけるICTを活用した場合の利点

(6) 図4のように自由記述による感想の質的分析では、自己の新たな気づき、客観的な視点の獲得、反復的視聴による深い観察・評価といった点が、ICTを活用する事による教育効果として明らかとなった。

#### 感想の質的分析(2015&2017年度)

1. 自己の新たな気づき(6人/14人)
2. 客観的視点の獲得(5人/14人)
3. ICTを活用した利点(5人/14人)
4. 評価・コメント機能の効果(4人/14人)
5. 反復的視聴による深い観察・評価(4人/14人)
6. 今後の改善・課題点(3人/14人)
7. 見本となるモデルを視聴することの効果(1人/14人)

図4 感想の質的分析

(7) 保育者養成教育における模擬保育におけるICTを活用した教材についても、2015年度から2017年度にかけて実施をした。模擬保育では、あらかじめ保育指導案を作成し、それに基づいて学習者が保育者役となって模擬保育を展開した。他の学習者は、子ども役となった。場所は養成教育機関内に設置された保育実習室を活用した。

(8) 模擬保育場面の撮影については、図5のとおりである。カメラを3台用意し、それぞれの映像を選択して閲覧することができるようにして、模擬面接と同様に学習者同士による相互評価を行った。

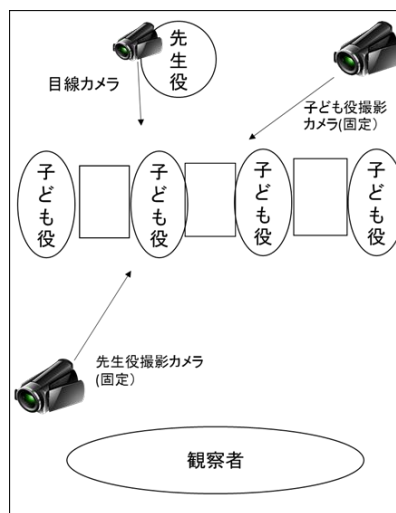


図5 模擬保育場面の撮影状況

(9) 模擬保育の評価では、有志の1~4年生の学生が19名参加して行われた。模擬保育の評価を行った後にアンケートを実施し、教材としての教育効果について分析を行った。

(10) その結果、模擬保育においても、何でも見直すことで自らの課題・改善点などを発見することができる、ちがった視点から模擬保育を見ることができる、模擬保育場面と保育指導案を見比べながら保育の「ねらい」を考えることができる、といった点で教

育効果が高いことが分かった。

(11) 以上から、模擬保育においては 模擬保育場面を自身の理解に応じて何度でも再生できる、 模擬保育場面と指導案を見比べながら「ねらい」を考えることができる、 同じ模擬保育場面で、違った視点から活動を見ることができる、 授業時間は模擬保育の実施に費やし、ピアレビューを時間外に行うことが可能になる、 事前に模擬保育場面を視聴し、授業でその中身を議論する事も可能になる、ということ を明らかにすることができた。

(12) 模擬面接および模擬保育に関する ICT を活用した教育プログラムの開発という研究テーマに取り組む中で、更に発展的研究課題として 受講者が多いサービラーニング（貢献活動参加型学習）における ICT の活用とその効果、 相談援助実習指導を支援するシステム開発の検討、といったテーマに取り組み、新たな知見を得ることができた。

#### <引用文献>

山辺朗子、ミネルヴァ書房、ワークブック社会福祉援助技術演習 個人とのソーシャルワーク、2003

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

#### 〔雑誌論文〕（計 2 件）

坂本毅啓、中原大介、佐藤貴之、社会福祉士養成教育における ICT を活用した実習指導支援システムの検討、地域ケアリング、査読有、第 19 巻第 11 号、2017、69-72

坂本毅啓、佐藤貴之、中原大介、福祉専門教育における情報技術を活用した教育プログラムの開発とその効果、地域ケアリング、査読有、第 18 巻第 12 号、2016、52-53

#### 〔学会発表〕（計 13 件）

坂本毅啓、佐藤貴之、中原大介、社会福祉士養成課程における ICT を活用した模擬面接教材の評価分析、教育システム情報学会 2017 年度第 6 回研究会、2018.3.17、第 32 巻第 6 号、125-132、畿央大学（奈良県）

中原大介、坂本毅啓、佐藤貴之、保育者養成教育における ICT 活用とその課題～模擬保育を中心に～、日本保育者養成教育学会第 2 回研究大会、2018.3.4、34、共立女子大学（東京都）

中原大介、坂本毅啓、佐藤貴之、保育者養成教育における早期体験教育・初年次教育への ICT 活用の検討、教育システ

ム情報学会第 42 回研究大会、2017.8.25、399-400、北九州国際会議場（福岡県）  
坂本毅啓、佐藤貴之、中原大介、社会福祉士養成教育における相談援助実習指導支援システムの提案、教育システム情報学会第 42 回研究大会、2017.8.24、275-276、北九州国際会議場（福岡県）  
坂本毅啓、佐藤貴之、中原大介、社会福祉士養成課程における模擬面接教材のルーブリック作成、教育システム情報学会 2016 年度第 6 回研究会、2017.3.18、149-154、北九州市立大学（福岡県）  
中原大介、坂本毅啓、佐藤貴之、模擬保育への ICT 活用とその評価について、日本保育者養成教育学会第 1 回研究大会、2017.3.5、38、白百合女子大学（東京都）  
中原大介、坂本毅啓、佐藤貴之、保育者養成教育における模擬保育用動画教材の形成的評価、教育システム情報学会第 41 回全国大会、2016.8.30、317-318、帝京大学宇都宮キャンパス（栃木県）  
中原大介、佐藤貴之、坂本毅啓、保育者養成教育における模擬保育への ICT 活用の検討、教育システム情報学会 第 40 回全国大会、2015.9.3、徳島大学（徳島県）  
坂本毅啓、佐藤貴之、中原大介、サービラーニングにおいて ICT を活用した実践例とその教育効果、教育システム情報学会 2015 年度第 2 回研究会、2015.7.14、第 30 巻第 2 号、59-64、北星学園大学（北海道）  
坂本毅啓、佐藤貴之、中原大介、スマートフォンによるコミュニケーションスキル獲得を目指した教材の開発～社会福祉士養成教育における模擬面接での活用とその学習効果～、情報処理学会第 16 回教育学習支援情報システム研究発表会、2015.5.23、放送大学熊本学習センター（熊本県）  
坂本毅啓、佐藤貴之、スマートフォンによるコミュニケーションスキル獲得を目指した教材の開発～社会福祉士養成教育における模擬面接での活用とその学習効果～、教育システム情報学会 2014 年度第 4 回研究会、2014.11.8、第 29 巻第 4 号、49-54、電気通信大学（東京都）  
佐藤貴之、坂本毅啓、浅羽修丈、シリアスゲームによる福祉専門職教育用教材の提案～事例検討の学習教材としての可能性～、教育システム情報学会 2014 年度第 3 回研究会、2014.9.29、第 29 巻第 3 号、11-14、香川大学（香川県）  
坂本毅啓、佐藤貴之、社会福祉士養成教育における ICT 活用の取り組み～模擬面接を対象とした ICT 教材の開発と教育実践～、教育システム情報学会第 39 回全国大会、2014.9.11、和歌山大学（和歌山県）

〔図書〕(計0件)  
記載事項無し

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕  
記載事項無し

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

坂本 毅啓 (SAKAMOTO, Takeharu)  
北九州市立大学・基盤教育センター・准教授  
研究者番号：30353048

### (2) 研究分担者

佐藤 貴之 (SATO, Takayuki)  
北九州市立大学・基盤教育センター・教授  
研究者番号：90310979

中原 大介 (NAKAHARA, Daisuke)  
福山平成大学・福祉健康学部・准教授  
研究者番号：20461999

### (3) 連携研究者 記載事項無し

### (4) 研究協力者 記載事項無し